

## アユのグルギア症に関する研究—Ⅳ

### 胞子の注射による人為感染

高橋 誓                      江草周三  
(滋賀県水産試験場)      (東京大学)

魚病研究 12(4) (1978)

1. G. plecoglossi の胞子を蒸留水または0.85%NaCl 溶液に懸濁させ、アユの軀幹背側部背鰭側下の一点の皮下にツベリクリン筒にて0.05 ml注射することにより、22日および35日後には注射点の皮下組織または表層に近い筋肉組織と腹腔内の幽門垂間、腹膜、生殖腺、蓄積脂肪体、肝臓、心臓、脾臓にグルギアシストを認めた。
2. 同様に胞子の蒸留水懸濁液を腹腔内に0.1 ml注射することにより、25日および31日後に幽門垂間、腹膜、生殖腺、蓄積脂肪体、脾臓、鰓、そして皮下組織または表層に近い筋肉組織内にグルギアシストの形成を認めた。
3. 現在までに魚類微孢子虫の注射による感染の報告はない。他の微孢子虫に対して同様に成立するか不明であるが、この方法により G. plecoglossi の生物学的研究や治療法の研究には多いに役立つ。